

別記様式(第5条関係)

会 議 録

会 議 の 名 称		令和2年 第1回福津市教育委員会定例会
開 催 日 時		令和2年1月28日(火) 午前 9時30分から 午前10時21分まで
開 催 場 所		福津市役所 本館2階 庁議室
委 員 名		(1) 出席委員 柴田教育長、藤井委員、今村委員、 半澤委員、青木委員
所 管 課 職 員 職 氏 名		榊教育部長、重富教育部理事兼教育総務課長、神山学校 教育課長、堀田文化財課長、永松主幹兼指導主事、 伊澤指導主事兼教育指導係長、藤岡指導主事兼教育指 導係長、笹田総務企画係長、松本
会 議	議 題 (内 容)	・議案第1号小規模校入学特別認可制度に伴う認定に ついて ・報告 ・その他
	公開・非公開の 別	☒ 公開 ☐ 非公開 ☐ 一部公開
	非 公 開 の 理 由	
	傍 聴 者 の 数	2人
	資 料 の 名 称	
会 議 録 の 作 成 方 針		☐ 録音テープを使用した全文記録 ☒ 録音テープを使用した要点記録 ☐ 要点記録
会 議 録 署 名 委 員		柴田教育長 半澤委員
そ の 他 の 必 要 事 項		

審議内容（発言者、発言内容、審議経過、結論等）

1 日程第1 開会の宣言

柴田教育長：皆さん、おはようございます。

それでは令和2年第1回福津市教育委員会定例会を始めたいと思います。本日、教育委員構成員5名中、ただいまの出席委員は5名で、定足数に達していますので、委員会は成立します。

直ちに会議を開きたいと思います。

本日の議事日程は、お手元に配付のとおりでございます。

2 日程第2 会議録署名委員の指名について

柴田教育長：会議録署名につきましては、規則16条の規定に基づき、本日の会議録は私、柴田と半澤委員で確認、署名することにいたします。

よろしくお願いします。

3 日程第3 議案第1号小規模校入学特別認可制度に伴う認定について

柴田教育長：議案第1号小規模校入学特別認可制度に伴う認定についてを議題といたします。

神山学校教育課長、説明と提案理由をお願いいたします。

神山課長：おはようございます。

議案第1号小規模校入学特別認可制度に伴う認定について、説明させていただきます。

小規模校入学特別認可制度に伴う入学及び転入学申請の令和2年度4月1日からの分でございます。勝浦小学校に、特別認可制度を活用して入学をしたいという児童の認定をお願いするものでございます。

まず、福津市立勝浦小学校入学特別認可制度実施要項をご覧ください。第7条の中におきまして、転入学児童の転入学の認定は教育委員会が行うことになっております。それから、第4条の1項におきまして、望ましい学級児童数を15人として、同数を超えない範囲内において、教育長が定めるものとなっております。この根拠に基づきまして、今回御説明をさせていただきます。

2ページをご覧ください。令和2年度4月1日から、転入学を希望する児童が10名いらっしゃいます。

全ての方が、勝浦小学校に見学も済まされておりますし、学校長とも面談をされた上で申請をされておりますので、御承認

の程よろしく願いいたします。

なお参考までに、令和２年度の勝浦小学校の児童数の明細につきましては、下段のほうに表を示させていただいております。特認の児童数が４５人、それから、地域の児童数が３８人ということで、令和２年４月１日から８３人の児童数でスタートをさせていただきたいと考えております。

以上で説明を終わります。よろしく願いいたします。

柴田教育長：来年度の勝浦小学校の特別認可制度に伴う入学者及び転入学者の申請でございます。

何かお聞きになりたいことはありませんか。

今村委員：特認の児童数のほうが多いですね。

特認の制度がなければ、全学年で３８名ということで、その場合、複式学級になるところが出てきますね。この制度は必要ということですね。

柴田教育長：よろしいでしょうか。

それでは、採決をさせていただきたいと思います。

小規模校入学特別認可制度に伴う認定について、御承認される方は挙手をお願いします。

(全員賛成)

ありがとうございます。全員賛成であります。従いまして、日程第３議案第１号小規模校入学特別認可制度に伴う認定については、原案のとおり承認されました。

今日の議案は、この１件だけでございます。

４ 日程第４ 報告

柴田教育長：日程第４報告についてです。教育長の動静報告は、いつものとおり、紙面にて報告とさせていただきます。

では、諸報告でございます。

学校運営協議会委員の変更について、神山学校教育課長よりお願いします。

神山課長：７ページの資料をお願いいたします。

学校運営協議会委員の名簿につきまして、管理職の人事の関係で、校長と教頭が変わっております。福岡東中学校の４号の委員と、勝浦小学校の７号の委員が、校長と教頭の交代により、名簿の変更をさせていただいているということを御報告させていただきます。

以上でございます。

柴田教育長：はい、それでは次に、再来年の令和３年度使用の教科用図書の採択に係る、令和２年度福岡教育事務所管内教科用図書調査研究協議会委員の推薦について、伊澤指導主事より説明をお願いします。

伊澤指導主事：はい。失礼いたします。

令和2年度福岡教育事務所管内教科用図書調査研究協議会委員について、半澤委員を推薦することにしております。

以上です。

柴田教育長：半澤委員よろしいでしょうか。

半澤委員：はい。

柴田教育長：引き続きまして、研究開発指定校（上西郷小学校）の取り組みについて、藤岡指導主事よりお願いします。

藤岡指導主事：文部科学省の研究開発学校制度指定を受けまして、本年度から令和4年度まで、上西郷小学校では、英語力・対話力の向上に向けた、個の学習到達や学習課題に応じた異学年共同学習に関する研究開発というテーマで、研究を進めていきます。

『英語力』と『対話力』の2つを向上させるという命題を受けました。

ここでいう『対話力』とは、コミュニケーションスキルです。いろいろな人と対話をする上での必要なスキルを、「ダイアログ」という時間を使って身につけていきます。

もう一つは、『英語力』を抜群に上げていこうという研究です。小学校では3、4年生から外国語活動があり、そして来年度からは5、6年生は外国語が教科になるのですが、さらにそれ以上の能力として、他者と英語でコミュニケーションができるぐらいまで英語力を高めていくということです。それについて、「英会話科」という新しい教科を立ち上げて、進めていくところです。

その学習の方法としては、今までの同一集団の中での一斉学習だけでは個のニーズに応じた授業を提供するにはまだまだ至っていないという国の課題もありますので、そのような一斉学習を大事にしつつも、上西郷小学校の特質を踏まえ、異年齢集団でグループを組織して学習を進めています。『対話力』や『英語力』の認知能力だけでなく、『人と関わる自信』というものも非認知能力として目指しております。

もともと中学年や高学年には、外国語と外国語科が設定されておりますが、1・2年生は設定されておりましたので、今回新規で設定されます。全学年に、年間35時間を、現在文部科学省が設定している国の基準に加えて、取り組んでいるところです。

『英会話科』は主に、聞く、話す、を中心とした授業場面を設定しています。

そのために、いろいろな教材を揃えました。例えば、子どもたちが小さいころから慣れ親しんでいる昔ばなしや童話の英語版の教材、また国語で学習したことがある教材の英語版です。英語で聞かせることによって、話の内容が理解できるとともに、英語でどう表現するのかを学ぶことができます。耳から学び、そしてそれを話し、アウトプットします。低学年に関して

は、英語劇にも挑戦していくようです。

さらに現在上西郷小学校では、朝の時間や、給食の時間にある校内放送を英語で行っています。英語を耳から入れていこうと取り組んでいるところです。また、今年度最後のお別れ集会では、紅白歌合戦でも歌われていた有名な「パプリカ」という歌を英語で歌います。1年生から6年生の縦割りの集団でそれを聞き合いながら、最後のお別れ集会に向けて練習を進めています。

実際に今年度、授業を試行期間ということでやってみました。一つの例ですが、本校は縦割り活動が教育活動の中に結構盛り込まれておりまして、縦割りの友達ともしっかり仲よくなろうという、特別活動があります。その中で、みんなでする遊びについて、英語でやりとりしながら、決めていこうという取り組みを、1年生から6年生の縦割りの集団で行った実践があります。

左下は、一斉に会して、教師がウォーミングアップをしている場面の写真です。右側は、「このスポーツをしたいときには、このように言うんだよ。」と6年生がモデルになって、低学年に教えているような場面の写真です。左側の写真は教えてもらい、身につけた表現をさらに進化させていくために、1年生と2年生が、お互いに言い合い、アウトプットしている場面です。

さらに新しくタブレットを導入しましたが、その中に英語教材も入れましたので、児童自身で実際の発音を確認することができます。授業にはALTもいませんし、英語専科の教員もいません。担任の教員が1人ついているだけです。ICT機器を活用しながら、授業の設定をして取り組んできたところです。

縦割りになっているということで、6年生のモデリングとしての活躍を期待しています。これは実際に6年生が先生役になり、低学年の子どもたちが発音し表現しているのを聞いて、それについてもう一回タブレットで確認し、表現方法について助言をしている場面です。このように、6年生が関わって教えるというような場面を設定しました。

しかし、6年生も英語力はそんなに十分には育っていませんので、分からない表現につきましては、教師に対して「ここは何て言ったら良いですか。」「このように言いかえることはできますか。」というように尋ねながら、さらに低学年に教えていくような場面を設定してきました。

実際に子どもたちが身につけた英語の表現を、さらにアウトプットしていきます。一斉学習の場合は、教員の問いかけに児童が一斉に答える場面があるのですが、児童一人一人が言えているか言えていないかが分からない状況があります。従いまし

て、個別のペアリングなどをして、子どもたちが会話をしていくような場面を設定していきました。会話の中で、問いかけに対して、単語で答えるということも、良しとしながら、学年に応じたレベルで、円形になって回りながら会話をするように設定しました。

今年度、取り組みを進めている中で、英語の時間の子ども達の表情の良さが目立ちました。先生達の表情も、英語の授業に関しては、笑顔が出ていました。

学び合いを行うと言いますけど、同一集団で行う場合は、教える人・教えられる人の関係が固定化している状況があります。しかし、異年齢で英語の学習を行う場合は、高学年が低学年に教える立場にたてます。そのような意味でも、異年齢で学習を行うと、いろいろな子ども達の関わり合いも生まれます。低学年は先生に聞くよりも、お兄ちゃんお姉ちゃんのほうが聞きやすいということもあります。『自信』といった非認知的な側面も成果としてみられました。

授業後の子どもの感想なのですが、「英語にジェスチャーをつけると、1年生にも伝わってうれしかった。先生みたいに表しようもやってみたい。」というように書いてあります。

高学年に関しては、さらにもっと伝わるためにどうしたら良いかということで、ジェスチャーや表情も大切だということを獲得しているところです。これについては、もっと話したい、もっと分かるようになりたい、という子どもの意欲の表れだろうと思っています。

また、別の高学年児童の感想には、「最初は英語が苦手だしどうしようと思っていたけど、低学年と楽しく笑いながら英語をいえたのでうれしかったです。」とあります。このように、自信にもつながる感想が生まれているところです。

その下は、「英語の学習は好きか」など、どのくらい主体的に英語学習に取り組んでいるかを表すグラフです。低学年は初めてやるものですし、先生だけではなく高学年の児童といった普段気が合う子ども達と一緒に学ぶ学習ですので、非常に楽しく参加しているということで、評価は高くなっております。

興味深いデータがあります。「授業中にもっと英語で話したい」と感じるかというアンケートをとった時に、低学年はもちろん高いのですが、高学年の子ども達も、約90%が話したいと答えていました。その次の「先生や友だちと英語でやりとりしたい」と感じるかのアンケートでは、それがもっと高くなっています。つまり高学年においては、英語を発表するだけではなく、いろいろな人と話し合うようになりたいという、そのような願いが意識調査から分かりました。

そのために、今年度は特設で光陵高校さんの協力も得て、6年生が光陵高校の英語講座を希望している学生と一緒に給食を

食べるという場面を設定しました。英語で好きな食べ物や趣味などを交流するような場面設定に取り組んでできました。

この後、光陵高校生はA L Tと一緒に、津屋崎千軒や宮地嶽神社に行き、そのような福津の文化財を紹介するという旅に出かけていきました。この縁をもとに、次年度以降、光陵高校生、A L T、小学生が一緒になって、福津の町をいろいろとA L Tに紹介していくような、そのような活動もしていくように考えています。

児童からは、「もっと上手く話せるようになりたい、そのために、いろいろな単語の意味や発音を知りたい。」といった感想がありました。

今年度実施してみて、子ども達がもっとコミュニケーションを取りたい、もっといろいろな知識や技能を身につけたい、という意欲が高まってきたというところに関しては、一定の成果があったのではないかと考えています。

次に、家庭や地域の方から、

「我が子が家で英語の歌を口ずさんだり、英語で挨拶したりする様子が見られ、学校での英語の授業を楽しみにしている。」

「動物や食べ物（果物等）を英語で話す姿があり、また、家族に家にある物の名前はどう表現するのかについて尋ねてくることが増えた。」

というような感想をいただいております。このように、学校外でも、英語について、関心を高めているというような、家庭の方の評価がありました。

また、他にも、

「外国語教育という新しいことに挑戦することはよいことであるが、古くからあるもの（不易の内容）をないがしろにしたり、表面的な取組になったりしないよう留意してほしい。英語はコミュニケーションのツールであるので、この学びで人を大切にして関わる人材を育ててほしい。」

という評価がありました。英語という文化について、もちろん理解はあると思うのですが、ただ新しいものに飛びついてやっていくだけではなく、これまで大事にしている故郷の学習や、国語や算数についても、丁寧に学習する取り組みとなるようにと、地域の方からの御指摘をいただいたところです。

今後の課題として、やはり今までの小学校の外国語の授業は、どちらかというとA L Tの先生や英語専科の先生にお願いするようなことが多くありました。ですが、今回は全学年一斉に行っていますので、一つの教室に一人の教員だけで英語を指導することが求められてきます。従いまして、先生方は指導に関して非常に不安を感じているところです。

子どもに抜群の英語力を身につけてもらうためには、先生達にも抜群の英語力を身につけてもらう必要があります。次年度

は、予算の中で、英会話教室の先生に来ていただき、1日2時間の教員向けの研修を年間15回ぐらい考えているところです。

さらに今後、子どもたちが英語力を身につけていくために、子どもがいろいろな人と英語で話す必要がありますし、話したいと思う状況や場面を設定する必要があると思っています。そのような教材や教科書以外のオリジナルの副読本も作っていく必要があります。

現在、中学生がトークフォークダンスを行っていますが、そのような形式で、地域の留学生など、ネイティブの方を招いて、子ども達が様々な方と英語で話すような場面や状況を設定していきながら、子ども達の英語力を身につけていく計画を、令和2年度は考えているところです。

今後、取り組みの方法や、途中の成果についても、このような場をお借りして報告させていただきたいと思っています。

以上で今年度の上西郷小学校の取り組みに関する報告を終わります。

柴田教育長：上西郷小学校の英語の取り組みをご報告いただきました。来年度からも3年間続きます。国も結構予算をつけてくれています。

何かお聞きになりたいことはありませんか。半澤委員どうぞ。

半澤委員：小規模校ならではの自由な縦割りで、すごく良い取り組みだと思いました。英会話科については、学年によって授業時間を年間34時間から105時間取られているということですが、どのようにしてこの時間数を確保されているのですか。

藤岡指導主事：他の教科も含めた授業の総時間数は変わらないように設定しました。

どこから持ってきたかという、もともとコミュニケーションに関わる内容は、総合の学習や特別活動、国語の話す・聞くという時間等で設定していますので、その分をとり出して、対話や英語コミュニケーション力の育成の時間にあてています。高学年に関しては、今ある外国語活動や外国語科の、年間35時間、年間70時間をこの英会話科に移しています。このように、コミュニケーションに関わる各教科の時間と、外国語の活動の時間を移して時間数を確保したところです。

半澤委員：そのことによって、他の学校と比べて、上西郷小学校の子どもができなくなる教科などはあるのでしょうか。

藤岡指導主事：それは、今のところないと考えています。

英会話科は外国語活動を中心に時間数を確保しています。ダイアログという対話の学習に関しては、例えば各教科で学ぶときの最後の発表会の時間を、この対話の学習に持ってきています。よって、何か内容が削減されるということは、今のところ

考えておりません。

半澤委員：わかりました。

藤井委員：外国国籍を持っている子どもさんや親御さんは、上西郷小学校にはいらっしゃらないのですか。

藤岡指導主事：そこまでの把握はできていません。

藤井委員：もしいらっしゃるのでしたら、率先して授業などにも参加できると良いかなと思いました。

藤岡指導主事：そうですね。人材発掘をこれから行いたいと思います。

柴田教育長：藤岡指導主事は、先々週に文部科学省まで呼ばれ、中間報告をしたり、今後の方向性の指導を受けたりしています。

国の研究開発校として、人の配置もされています。複数の学校がこのような指定を受ければ良いのですが、福岡県では、上西郷小学校と福教大の附属小学校の2校だけです。

昨年計画書をしっかりと作成し、国に申請をして、それを認めていただき、「それでは上西郷小学校で進めてください。」となりました。

今村委員：福岡県では2校ということですが、全国では何校ぐらいが指定を受けているのですか。

藤岡指導主事：現在継続中の学校は、全国で30校ぐらいです。

今村委員：30校ですか。小規模校だけではなくて、いろいろなケースの学校を選んでいるのでしょうか。

藤岡指導主事：今までは、学校独自に取り組みを行い、次の指導要領に打って出るような新教科を研究している学校が多くありました。今は、地域や自治体で、9年間のカリキュラムをどのようにするか、9年間の接続で新しい教科を設定して、研究開発をしている学校が増えています。

半澤委員：英語の学習を9年ぐらいしても、なかなか話せるようにはなりません。このような、会話に特化した学習は、すごく良い取り組みだと思います。

柴田教育長：ありがとうございました。

また今後も定期的に藤岡指導主事のほうから報告を受けたいと思います。

それでは次に、重富理事より報告をお願いします。

重富理事：先月24日の教育委員会定例会で、竹尾緑地に中学校を新設し、小中一貫教育5－4制の導入という市の案が固まりました、という報告をさせていただきました。その際に令和2年度から基本設計に入ります、というお話もさせていただきましたが、このたび令和2年度当初予算の最終査定結果通知というのが出まして、今のところ当初予算には、基本設計が計上されていないということになりました。

今後どうなるのかというのが若干不透明なところで、教育委員会としては当然ながら予算要求はしたのですが、最終的に要求は通りませんでした。

以上で報告を終わります。

柴田教育長：次の議会に向けて、教育委員会としては準備を進めていくということです。

5 日程第5 その他

柴田教育長：それでは、日程の第5、その他について事務局よりお願いします。

笹田係長：資料の10ページに、今後のスケジュールについて載せております。教育委員の皆様に関わる部分を御案内いたします。

本日この後、10時45分から総合教育会議を別館1階の大ホールで行います。

1月30日（木）、第3回古賀高等学校組合教育委員会が古賀市役所で行われます。藤井委員の出席をお願いいたします。

2月12日（水）、教育委員会定例会です。こちらは日程を当初から変更いたしまして2月12日の開催です。時間は午後4時から、この庁議室で行いたいと思います。よろしくお願いいたします。

2月17日（月）、コミュニティ・スクール報告会が1時半からふくとびあで行われます。

以上です。

柴田教育長：今後のスケジュールです。

3月議会の関係で、2月の定例会は2月12日に前倒ししていますので、よろしくお願いいたします。

柴田教育長：コミュニティ・フェスタの報告を永松指導主事よりお願いします。

永松指導主事：先日、1月26日に中央公民館にてコミュニティ・フェスタを開催いたしました。今回は多くの来場者に御参加いただきました。ステージの部では、オープニングにいろどり真愛保育園からスタートしまして、神興幼稚園、3中学校、7小学校、それからアンビシャス広場や子ども会の地域で活動する子どもたち、そして、エンディングに大和保育所ということで、発表がありました。

どの団体も本当に思考を凝らした発表で、地域の方々からも、随分お褒めの言葉をいただいて大盛況に終わることができました。体験ブースや飲食コーナーなどもあり、次年度は今年度よりもさらにパワーアップして、進めてまいりたいと思っています。

以上、報告を終わります。

柴田教育長：はい。ありがとうございました。

それでは、最後に榊教育部長より報告をお願いします。

榊部長：今年は東京オリンピックが開催されます。聖火リレーが福津市も、特別区間として、新原・奴山古墳の散策路から昭和学園の

駐車場のところまで約1 km、5月13日（水）の夕方になるかとは思いますが、予定されております。

ランナーについてです。県と国が決めることなので、5区間ありますが、1区間だけ情報が出ております。ランナーについては勝浦小学校出身で、現在津屋崎中学校の陸上部の生徒が走ります。詳細については、随时お知らせをさせていただければと思っております。

6 日程第6 閉会宣言

柴田教育長：それでは、令和2年第1回福津市教育委員会定例会はこれにて、閉会いたします。ありがとうございました。